

事業計画書目次

[みどり環境局]

1款1項2目

(単位：千円)

計画書頁	事業名	令和8年度		令和7年度		増△減（8－7）		新規・拡充
		事業費	市債+一財	事業費	市債+一財	事業費	市債+一財	
1	良好な農景観の保全事業	86,270	0	88,930	0	△ 2,660	0	
2	農とふれあう場づくり事業	996,670	838,000	506,000	300,000	490,670	538,000	
	計	1,082,940	838,000	594,930	300,000	488,010	538,000	

令和8年度 事業計画書

事業局課	みどり環境局	農政推進課				新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充		事業評価書番号	1	
歳出予算科目	みどり保全創造事業費会計	1	款	1	項	2	目	政策群番号	14	施策群番号	32
事業名称	良好な農景観の保全事業										

(単位：千円)

区 分	金 額	財 源 内 訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和8年度	86,270	0	0	86,270	0	0
令和7年度	88,930	0	0	88,930	0	0
増▲減	▲2,660	0	0	▲2,660	0	0

歳出		令和5年度	令和6年度
予算	事業費	86,710	79,350
	市債＋一般財源	0	0
決算	事業費	61,615	67,397
	市債＋一般財源	0	0

事業概要 (アクティビティ)		農地は良好な農景観の形成や生物多様性の保全、雨水の貯留・かん養機能などグリーンインフラ（※1）としての多様な機能を有しており、横浜に残る農地や農業がつくりだす「農」の景観も多様です。農業専用地区（※2）に代表される、集団的な農地から構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観などが、地域の農景観として多くの市民に親しまれてきました。この農景観を次世代に継承するため、横浜に残る貴重な水田景観を保全する取組や、意欲ある農家や法人などが農地を維持する取組を支援します。 ※1 農地などの自然的環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある都市づくりを進めるための社会資本 ※2 都市農業の確立と都市環境の保全を目指し、まとまりのある農地を横浜市独自の制度により指定した地区							
事業指標① (アウトプット)		年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
水田保全面積	単位	目標	125.0	115.0	115.0	115.0	115.0	115.0	115.0
	ha	実績	111.1	112.5					
事業指標② (アウトカム)		年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
水田保全率	単位	目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
	%	実績	93.4	94.5					
事業目的		<p><事業目的> 横浜に残る農地や農業がつくりだす「農」の景観は多様です。集団的な農地により構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観などが、地域の農景観として多くの市民に親しまれてきました。この農景観を次世代に継承するため、横浜に残る貴重な水田景観を保全する取組や、意欲ある農家・法人などによる農地を維持する取組を支援します。</p> <p><必要性（効果）> ・水田が10年間保全され、良好な景観の形成や生物多様性の保全などの多面的機能が発揮されます。 ・不法投棄をされやすい時間帯に警備巡回者を配置することにより、不法投棄を未然に防止（抑止）します。 ・緑肥作物等による環境対策への活動が進むことにより、周辺環境と調和した農景観の保全につながります。 ・耕作放棄地や利用程度の低い農地を、新規参入者や意欲的な担い手農家に農地を集積化させることにより、優良農地の保全を図ります。</p>							
背景・課題		<p>・横浜みどりアップ計画に基づき、良好な農景観を保全するための施策を推進しています。 ・経営耕地面積は平成22年から令和2年の10年間で2,203haから1,675haに約24%減少しました。 ・水田景観は多くの市民に親しまれてきましたが、担い手の高齢化や米の販売価格の低迷などにより水田面積の減少が著しい状況です。土地所有者等に対する水田の継続的な保全の支援が求められています。 ・水田景観の維持には、適切な維持管理が必要で、保全作業を行う耕作者への支援が必要です。 ・夜間の農地は暗がりが多く、人目に付きにくい環境となっているので不法投棄が絶えず、良好な農景観を維持するための対応への支援が求められています。 ・農地と住宅地とが近接しており、農地からの土砂流出・土ぼこりの抑制など周辺環境との調和が求められています。 ・耕作放棄地は増加し、農景観の悪化や不法投棄の発生が懸念されています。多くの市民から耕作放棄地の発生を防止・解消し、農地を維持する取組みが求められています。</p>							
根拠法令・方針決裁等		<p>①水田の保全 水田保全奨励事業実施要綱 水田保全活動奨励事業実施要綱 水田保全耕作者支援事業実施要綱 水田保全耕作者支援事業補助金交付要綱</p> <p>②農景観を良好に維持する活動の支援 横浜市緑肥作物等による環境対策奨励事業実施要綱</p> <p>③多様な主体による農地の利用促進 農地中間管理事業の推進に関する法律 横浜市農地貸付促進事業奨励金交付要綱 横浜市農地復元支援事業補助金交付要綱</p>							
根拠・データ等		<p>・横浜みどりアップ計画[2024-2028]における目標値：年間115haの水田面積 ・＜実績推移＞令和2年度113.3ha、3年度112.2ha、4年度111.9ha、5年度111.1ha、令和6年度112.5 ・「横浜のみどりに関する土地所有者意識調査（令和4年7月）」において、「農地を貸すための条件」について「農地の整備（荒廃農地の復元）」と回答した割合：19.1％ ・「食と農林漁業に関する世論調査（平成30年：内閣府）」において、「農業政策に対する期待」について「耕作放棄地の発生を防止・解消し、農地を維持すること」と回答した割合：38.6%</p>							

事業スケジュール	<div>①水田の保全</div> <div><水田保全奨励></div> <div><div>・4～6月：新規・更新申出受付</div><div>・6～10月：現地調査</div><div>・11～12月：新規・更新承認</div><div>・1～2月：奨励金交付決定</div><div>・3月：支払</div></div> <div><水田保全活動奨励></div> <div><div>・4～6月：新規申出受付</div><div>・6～10月：現地調査</div><div>・1～2月：奨励金交付決定</div><div>・3月：支払</div></div> <div><水田用機械の導入支援></div> <div><div>・4月以降随時：新規登録申出受付</div><div>・4月上旬～4月中旬、以降随時：補助事業事前申出受付</div><div>・5月中旬～2月：補助金交付申請受付</div><div>・6月中旬～3月末：実績確認、補助金交付</div></div> <div>②農景観を良好に維持する活動の支援</div> <div><夜間警備委託></div> <div><div>・通年：市内のいずれかの農地を監視</div></div> <div><横浜市緑肥作物等による環境対策奨励事業></div> <div><div>・4月～以降随時：奨励金交付申出受付、現地調査</div><div>・6月下旬～3月：事業実施報告受付</div><div>・7月上旬～3月末：支払</div></div> <div>③多様な主体による農地の利用促進</div> <div><農地貸付促進></div> <div><div>・4～12月：貸借状況の確認</div><div>・1月：交付対象者確定</div><div>・2月：交付決定</div><div>・3月：奨励金交付</div></div> <div><農地復元></div> <div><div>・～1月末：申出受付</div><div>・～3月末：補助金交付</div></div>
事業開始年度	①水田の保全 水田保全奨励：平成21年度 水田保全活動奨励：令和6年度 水田用機械の導入支援：令和6年度 ②農景観を良

細事業(事業内訳)	細事業名称		8年度	7年度	差引 (増減)	増減説明
	1	水田の保全	54,200	53,200	1,000	人件費高騰による委託料の増
	2	農景観を良好に維持する活動の支援	14,850	18,200	▲3,350	内容精査による委託料等の減
	3	多様な主体による農地の利用促進	17,220	17,530	▲310	奨励金交付対象面積の減少に伴う減
	細事業合計		86,270	88,930	▲2,660	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	朝倉 友佳	係長	加部 祐介	

令和8年度 事業計画書

事業局課	みどり環境局	農業振興課				新規拡充	□ 新規 □ 拡充		事業評価書番号	2	
歳出予算科目	みどり保全創造事業費会計	1	款	1	項	2	目	政策群番号	14	施策群番号	32
事業名称	農とふれあう場づくり事業										

(単位：千円)

区 分	金 額	財 源 内 訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和8年度	996, 670	35, 000	0	123, 670	838, 000	0
令和7年度	506, 000	0	0	206, 000	300, 000	0
増▲減	490, 670	35, 000	0	▲82, 330	538, 000	0

歳出		令和5年度	令和6年度	令和9年度		令和10年度	令和11年度
予 算	事業費	400, 394	742, 000	184, 340		135, 670	135, 670
	市債＋一般財源	220, 000	435, 000	29, 600		137, 400	137, 400
決 算	事業費	114, 355	552, 861				
	市債＋一般財源	69, 000	400, 458				

事業概要 (アクティビティ)		食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を進め、市民が農とふれあう機会を提供します。							
事業指標① (アウトプット)		年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
収穫体験農園の開設 支援	単位	目標	1. 50	2. 00	2. 00	2. 00	2. 00	2. 00	
	ha	実績	1. 62						
事業指標② (アウトカム)		年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
農とふれあう機会の 増加 (開園数)	単位	目標	78	84	90	96	102	108	
	件	実績	81						
事業目的		・ 収穫体験農園の開設支援事業 野菜の収穫や果物のもぎとりなどを身近で体験することができる場を増やすため、収穫体験農園の開設に必要な施設整備等を支援します。 ・ 農園付公園の整備 土地所有者による維持管理が難しくなった農地等を市が買い取るなどして、市民が農作業を楽しめる農園を主とした都市公園を整備します。							
背景・課題		令和5年度「横浜市の緑の取組に関するアンケート調査」では、「森や農、街なかの緑や花に関するあなたの活動について 現在おこなっているもの、今後おこなってみたいもの」という質問に対して、「野菜や果物の収穫体験・市民農園等での野菜づくり」を現在おこなっている人は4.6%だったのに対して、今後おこなってみたい人は41.9%と圧倒的な差があり、市民ニーズが高い。							
根拠法令・方針決裁等		横浜みどり税条例、横浜みどりアップ計画[2024-2028]、横浜市収穫体験農園の開設支援事業補助金交付要綱、都市公園法、横浜市公園条例							
根拠・データ等		・ 横浜の緑に関する市民意識調査及び土地所有者意識調査 ・ これからの緑の取組[2024-2028]（素案）に対する市民意見募集 ・ 過去の実績							
事業スケジュール		・ 収穫体験農園の開設支援…事業募集（通年）、申請受付（夏頃）、事業実施（通年） ・ 農園付公園の整備等…測量、設計、工事等							
事業開始年度		平成21年度							

(単位：千円)

細事業 (事業内訳)	細事業名称		8年度	7年度	差引 (増減)	増減説明
	1	様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	996, 670	506, 000	490, 670	工事・設計内容の違いによる増
	細事業合計		996, 670	506, 000	490, 670	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長
	澤田 悦子	杉村 健太